



Oasis meets Books

オアシス・ミーツ・ブックス

本のあるオアシス 本のある人生

2025年10月 vol.31

【秋を楽しみましょう】

皆様、夏の疲れは癒えましたでしょうか!? わが娘は夏祭りで空手の形を披露しました。楽しみにしていた板割りで板を割れずに悔しかったのか、その後も自宅で練習に励んでいました。

そんな娘の習い事を待っているあいだの読書の時間は、何にも邪魔されずに気分転換できる、私にとっての貴重で楽しみなひとときです。秋の夜長、気になる本を手にとってみませんか? (教育委員会 委員長:前田 吉紀)

夢をかなえるゾウ / 水野 敬也

老健 オアシス リハビリ / 柔道整復師 金生 健二

本書は、物語を通して人生における大切な気づきを与えてくれる、前向きになれる一冊です。



平凡な毎日過ごす主人公が、関西弁を話すユニークな神様・ガネーシャと出会い、夢をかなえるための課題に取り組んでいく過程は、笑いながらも深く共感できました。

ガネーシャが与える課題は「靴を磨く」「感謝を伝える」など一見地味ですが「夢の実現に必要なのは特別な才能ではなく、日々の小さな行動の積み重ねだ」というメッセージに心を打たれました。

私の趣味である筋力トレーニングは、毎日の努力と継続が何よりも大切です。また私が仕事で携わっているリハビリにおいて、施術を受ける方は「続けること」「小さな変化を見つけ喜ぶこと」が重要です。

ガネーシャの教えと自分の考えが重なったことが、大きな励みになりました。本書から学んだ姿勢を、今後も仕事や生活に活かしていきたいと思います。



・次回⇒老健 オアシス リハビリ / 理学療法士 上芝 真凜

だいじ だいじ どーこだ? / 作:遠見 才希子 絵:川原 瑞丸

デイサービス オアシス長瀬 / 介護士 山崎 加奈美

人間の身体や性について、いつ、どのように学びましたか?知らない間に覚えたのか、学校で教えてもらったのか、私は思い出ません。

親になり、そういったことを自分の子どもにどう伝えるべきかと悩んでいた時にこの絵本を知りました。

分かりやすい絵と簡単な文章によって正しく理解することができ、子どもに教える自信ができました。

今はまだ子どもは幼く、意味を理解することはできません。「だいじ だいじ〜」と言いながら自分の手で自分の身体に触れて確認したり、手遊び絵本のように楽しんでいます。

絵本の後半は、「人には触らせない」「こんな時はどうする」といった内容で、子どもがもう少し大きくなり言葉を理解できるようになれば、自分で楽しみながら身体や性について学べると 생각합니다。

最後には大人に向けたメッセージがあり、私自身にとっても勉強になる本でした。親として最初でできる、簡単だけど大切な教えになれば、と思いながら今日も読み聞かせています。



・次回⇒介護支援センター オアシス長瀬 / 管理者 吉田 直美

バスが来ましたよ / 文:由美村 嬉々 絵:松本 春野

デイケア オアシス寿安 / 理学療法士 根岸 芽衣

実話をもとにしたこの絵本を選んだ理由は、たまたま子どもに読み聞かせをしていて大変感動したからです。



網膜色素変性症という難病にかかり視力を失ってしまった男性が、ある日の通勤中に小学生の女の子から「バスが来ましたよ」と声をかけられます。バスを降りたあとも女の子は職場の近くまで男性に付き添います。その女の子の卒業後も何人かの小学生が入れ替わり、男性が定年を迎えるまでの10年間、声をかけ付き添うという善意のバトンを繋いでいきます。

身近に困っている人がいても、心配し思いやり、声をかけることは簡単ではありませんが、この絵本を読んで自分にもできると勇気が湧きました。また、その姿を子どもに見せていけたらいいな、と思います。



・次回⇒デイケア オアシス寿安 / 柔道整復師 中村 益三

人は話し方が9割 / 永松 茂久

老健 オアシス 衛生 / 審 秀子

人と人がコミュニケーションを取るうえで「言葉」は最も大切なツールのひとつです。言葉により信頼を結び物事が円滑に運ぶこともありますが、ナイフのように尖った言葉を投げられ心にダメージを受けることもあります。

この本には「好かれること」より「嫌われないこと」が重要で、「話し上手な人は余計なひと言を言わない」と書かれています。

そして、「自己肯定感を上げる!」すなわち「否定のない空間」に身を置くのが良く、「否定しない」「笑顔で傾く」「プラトークをする」ことによって、ストレスのないコミュニケーションが取れるようになります。

また、自分の言葉を一番聞いているのは自分自身(!)なので、ネガティブな言葉避け、感謝の言葉を口癖にすることを実践していこうと思います。



・次回⇒老健 オアシス 衛生 / 浅田 淳子

ブルーロック / 原作:金城 宗幸 漫画:ノ村 優介

特養オアシス寿安 地域連携課 / 副主任 生活相談員 松川 裕和

『ブルーロック』1巻を読んだらハマってしまい、全巻集めてしまいました。これほど漫画に熱中したのは久しぶりで。



サッカーをテーマにした作品ですが、ライバルとの厳しい競争を重ねて主人公の潔世一が成長を遂げる過程に垣間見える、作者の思想・哲学から多くのことが学べます。日常生活や仕事における決断の際にそれらを意識し、実践することで自身も成長しているように思えます。

他のキャラクターたちも主人公に劣らず個性的で魅力があり、彼らの考え方や発する言葉のインパクトが大きく、サッカー好き以外の方にもぜひ読んでほしい作品です。これからどのように展開するのか楽しみで、次巻が待ち遠しいです。

『ブルーロック』のアニメは2期まで放送されており、子どもと一緒に全話見ました。親子の時間を楽しく過ごすことにも一役買ってくれています。

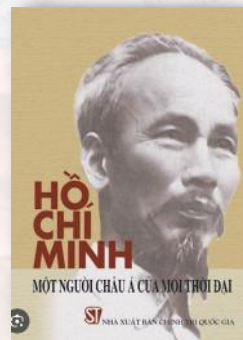


・次回⇒特養 オアシス寿安 生活支援課 / 介護士 田上 秀利

Hồ Chí Minh: Một người châu Á của mọi thời đại / Nhà xuất bản Chính trị quốc gia

老健 オアシス 入所介護 / 介護士〔技能実習〕 レー・ティ・ハン

タイトルを日本語にすると「ホー・チ・ミン:あらゆる時代のアジア人」でしょうか。ベトナムの指導者、ホー・チ・ミンの生涯、思想、そして彼がベトナムとアジアに与えた影響について深く掘り下げた本です。表紙の、彼の穏やかながらも力強い眼差しは、国を独立に導いた彼がいかに国を想い、国民を愛したかを物語っているようです。



彼の思想や行動が時代を超えて今も人々に影響を与え続けている理由の一つは、彼が放つメッセージの普遍性ではないでしょうか。特に「あらゆる時代のアジア人」という言葉には、一国の指導者にとどまらず、アジアの歴史やアイデンティティを形成する上で重要な役割を果たそうとした強い意志が表れています。彼が生きた時代の背景や、直面した困難、そしてどのような哲学をもってそれらを乗り越えたのか、更に深く学びたいと感じました。

この本は、ホー・チ・ミンの人間性や彼がベトナムに抱いていた理想、またその理想が現代アジアにどのように繋がっているのかを理解する手助けとなるでしょう。歴史上の人物から現代の課題解決への示唆を得られる、非常に価値のある一冊です。



・次回⇒老健 オアシス 入所介護 / 介護士 須藤 花音

いい旅を、と誰もが言った / 片岡 義男

営業部 営業推進室 / 室長 (2025.8.31 退職) 坂本 順一

「スローなブギにしてくれ」や「メイン・テーマ」など、映画化された作品よりも、こっちは断然楽しい!



「片岡義男の小説には、いつも吹き抜けていく風の質感が感じられる。それはそれぞれの場面に従って、湿度の極めて低いカラリとした風だったり、あるいはスコールのような重い雨粒を抱いた高圧な風だったりする。この本の中でも風は常に吹いている。その風を触感として感じながら読み手は片岡義男の描く風景の中に佇むのだ」(※)という感想がある方がインターネットに投稿されていますが、まさにこのとおり。

それぞれの場面の季節や光、風や湿度を実際に感じている気分させてくれるので、その場所を探して旅に出たくなります。

この感覚をぜひ、実体験してみてください。

※「読書メーター」(<https://bookmeter.com/>)より



・次回⇒木下内科クリニック / 看護師 古田 裕子

オアシス文庫 recommend



自閉症の僕が
跳びはねる理由
東田 直樹

自閉症の症状として「会話が成り立たない・じっとできない・思い通りにならないと感情が大崩れる」などが見られますが、それらは「感覚のセンサーが優れているため、記憶力が良く、触覚や音刺激に敏感」という特徴によるものだと思います。(※)

会話が困難な重度自閉症の筆者が13歳の時に執筆したエッセイを基にしたこの本には、自閉症と生きる方々がどんな気持ちでいるのか、なぜそのような行動をとるのか詳しく書かれています。

道を歩いている時や電車の中で、急に大声を出したり、独りで意味が分からない内容を話していたりする人を見かけた時に感じていた不安は無知による誤解と偏見から生じたものであり、正しい知識は世の中の見え方や内面を大きく変えることを実感しました。

※一般社団法人日本小児神経学会
(<https://www.childneuro.jp/>)を参照
(教育委員会: 中川 尚子)

老健・特養寿安・支援長瀬の
「オアシス文庫」から貸し出しできます▶



編集後記

坂本順一さんの原稿を最初に見てしまったため、校正中ずっと、南佳孝の「スローなブギにしてくれ」が頭の中に流れていました。その流れで、久々に大好きな80年代の洋楽を聴きたくなり、YouTubeで流しはじめるとそちらに集中してしまい、気がつけば何時間も経っていました。映画化やドラマ化されている作品は、その音楽とともに心に残ることがよくあります。

音楽でなくても、懐かしい本を手にとると瞬間、それを読んだ時の五感の全てが戻る時があります。時には五感に留まらず、頭の中で描いた風景や感情が鮮やかに蘇ることも。今回紹介されている絵本も、親御さんの思い出とともに記憶の奥に残るのですね。

oasis

教育委員会

(教育委員会: 中島美和子)